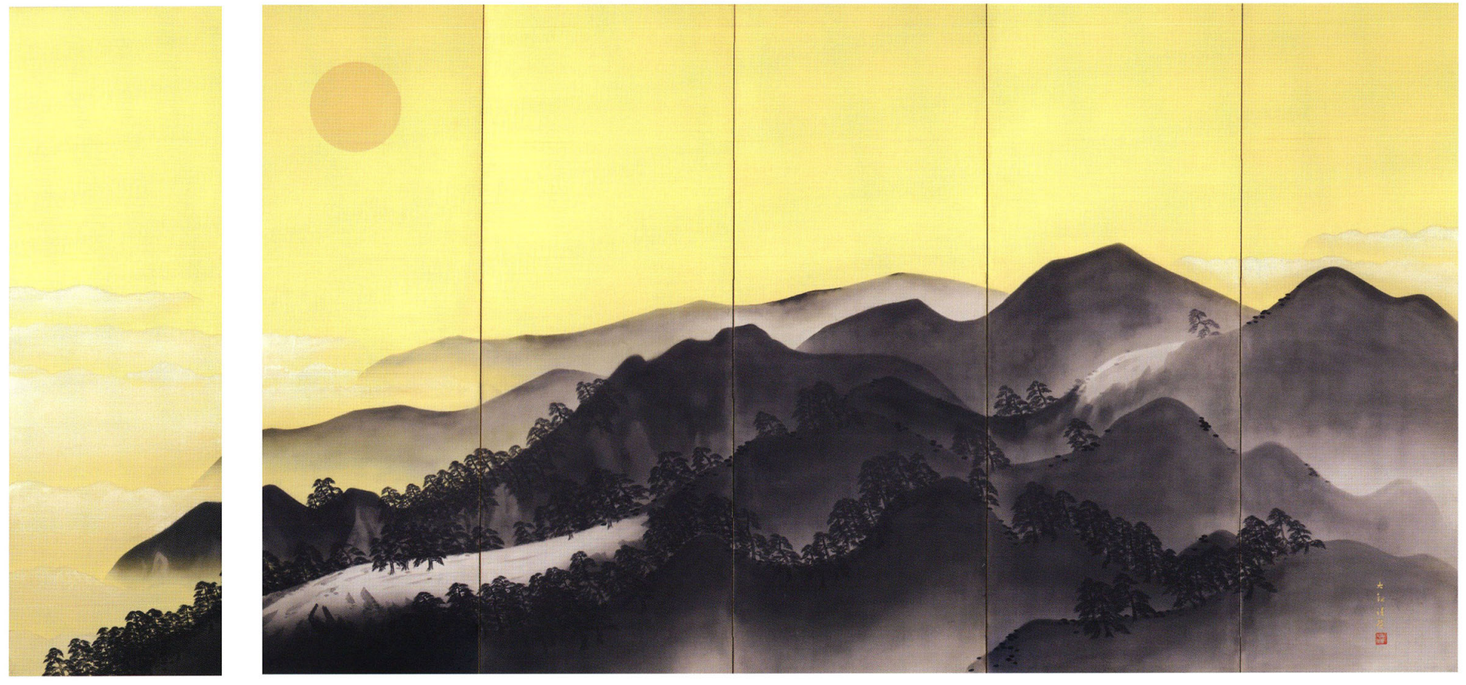

9　朝陽霊峯

横山大観　　六曲一双

昭和二年（一九二七）
紙本墨画金彩
各二〇九・〇×四五二・四

本屏風は、横山大観（一八六八～一九五八）が大正十五年（一九二六）に豊明殿を飾る調度として、宮内省の委嘱により制作した。山並みと日輪を描いた右隻は、三島・沼津あたりの景色から着想したとされ、左隻には雲海に聳える富士の威容を描く。金地に黒白を対比させた明快な色彩と単純化された構図は、本屏風が広い空間で用いられることを想定し、人々の視線を屏風に向けさせるための工夫にちがいない。

本作を揮毫する際、大観は水戸徳川家から拝領した古墨を使用したという。その墨は日本に亡命した明朝遺臣の儒家・朱舜水の遺物と伝えられており、皇室に納める屏風に、大観は名墨を惜し気もなく用いたのである。墨痕淋漓とした連山の深い味わいは、古墨が醸し出す独特の色合いによるものだろう。「墨に五彩あり」という言葉どおり、黒一色のなかに、幾通りもの濃淡や描き方があることを示しているのである。

大観は生涯にわたって富士を画題としており、その総数は二〇〇〇点にも達するという。大観は富士の魅力について、季節や時間、場所によってさまざまな表情を見せることだと述べているが、意外なことに富士登山の経験はなかったらしい。しかし本屏風は、形を正確に写すことよりも、心（精神）で描くことを重視した大観らしい、堂々たる富士の姿となっている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写
三の丸尚蔵館展覧会図録No.86

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社アイワード
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan